

健康ほくほく通信

〒保健介護課 保健係 内線3113～3116

No.30 「かかりつけ医」はありますか？

新型コロナウイルス禍で、かかりつけ医は発熱時やワクチンの相談先として注目が集まりました。日本医師会総合政策研究機構の調査によると、20歳以上で43.9%が「身近なかかりつけ医がない」と答え、その内64.6%が「情報が足りない」と答えています。そこで今回は「かかりつけ医」について考えてみましょう。

「かかりつけ医」ってなに？

かかりつけ医とは、健康管理や初期の治療をしてくれる身近なお医者さんのことです。例えば、インフルエンザ等の予防接種、風邪などの病気にかかった時や、健康診断で異常を指摘された際などに、自宅やお勤め先の近くにある診療所(医院)に行くことはありませんか？それがかかりつけ医なのです。

「かかりつけ医」の定義とは

健康に関することをなんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。(日本医師会HPより)

「かかりつけ医」を持つメリットは？

- ①日頃の健康管理の相談に応じてくれます。
- ②入院や高度な治療が必要な場合、適切な病院(診療科)を紹介してくれます。
- ③病気の予防や早期発見・早期治療にもつなげます。

「かかりつけ医」を持つとう！

- ・かかりつけ医はご自身で選択できます。日常生活における健康の相談や体調が悪いときなどにまず相談します。自分が信頼できると思った医師であればかかりつけ医となります。
- ・かかりつけ医は1人に決める必要はありません。内科の医師がかかりつけ医と思われがちですが、どの診療科の医師でもかかりつけ医になります。

日常生活における健康の相談から傷病による受診や通院など「かかりつけ医」は、どの世代の方にとっても健康をサポートする頼もしい存在となります。

北宇和病院
だより



予防接種について

現在、北宇和病院ではモデルナ製新型コロナウイルスワクチンの個別接種を、4回目の方を中心に行っています。10月以降は新型コロナウイルスワクチンの接種に加え、例年通りインフルエンザウイルスワクチンの接種も予定されています。国の指針では、コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同日接種も容認されていますが、副反応や事故のリスクを考慮し、当院では同日接種は行いません。

その他にも、コロナウイルスワクチンの5回目接種やオミクロン株対応の新しいワクチンの導入も検討されています。また、65歳以上の方で年度末(令和5年3月末)まで有効の肺炎球菌ワクチンのお知らせが届いている方もいらっしゃると思います。希望するワクチン接種が正しく受けられるよう、早めに「かかりつけ医」にご相談の上、申し込みをしていただくようお願いいたします。

編集後記

▼表紙のラジオ体操の撮影のために、この日は朝4時過ぎに起床。まだ夜の明け切らない暗い道を、寝ぼけ眼をこすりながら出勤しました。少しだけ秋の気配も感じられるようになった、しっとりとした空気。朝もやに煙る山々。通勤ラッシュが始まる前の静けさ。普段はあまり体感できない心地良さを肌で感じながら、シャッターを切りました。(輝)

今月の一枚



公民館のカヌー教室の中で行われた、ターザンジャンプ。飛び出す瞬間は勇気がいらしますが、女の子も臆せず挑戦していました。私、子ども時代には、子どもだけで川遊びに行くことがよくありましたが、時代の流れの中で、子どもに危険なことはさせない風潮が強まってきました。子どもたちを危険から遠ざけることは必要かもしれませんが「何が危険で、どうすれば安全か」と、身を持って学ばせることも大事ではないかと感じています。